

ふたかみ NEWS プチトマト

トピック
古着市
チャリティーコンサート
詳細4面！



ハピバール

キーホルダーを作ろう！

今年もカフェハピバールで夏休みのワークショップを行いました。
今回は中が見える「シャカシャカキーホルダー」作りです。
見てるだけでも楽しい♪振ってシャカシャカ楽しい♪
仲間もお客さまも笑顔になった良い時間でした。(大西)

社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者: 石本悦二 編集責任者: 関口奈緒美



チャリティーコンサート2026

楽しく歌おう！みんなでつくる、みんなのステージ

2026年12月5日(土) 13:30 開場/14:15 開演

LIC はびきのサムテックホールM (大阪府羽曳野市軽里1丁目1-1-1)

浪速高等学校吹奏楽部
仲間の合唱
手話サークル団体の手話ダンス出演もあります！

事前申込制

チケット
2,000円(全席自由)

賛同金のお願い

記念すべき30回目となります。このコンサートで得た収益は、ふたかみ福祉会や地域に還元し、法人の事業や地域福祉の向上に寄与します。
つきましては、本イベントの趣旨にご賛同いただき、ご支援賜りたく、賛同金のお願いをさせて頂きたくお願い申し上げます。(大竹)

【賛同協力料】

- ①団体賛同金 … 1口 3,000円(何口でも可)
- ②個人賛同金 … 1口 1,000円(何口でも可)

ご質問等は下記にご連絡ください
ふたかみ福祉会後援会 072-957-4041
チャリティーコンサート・賛同金担当まで

受け付け
フォーム



♪うたごえボランティアさん 大募集

第一部「障害(しょうがい)のある仲間(なかま)とボランティアのうたごえ」と一緒に歌っていただける方を募集しています。

ご興味のある方、下記までご連絡ください。

お問い合わせ: 072-958-3232
ハピバール ボランティア担当: 波多江(はたえ)
質問等、Instagramで受け付けております →



秋の古着市

全商品100円

2026年11月28日(土) 10:00~13:00

会場: 翠鳥園横空き地(イズミヤ古市店横)

売り物: 古着、靴、かばん 子ども服もあります！

当日の天候等により、時間等を変更する可能性があります

バザー物品の提供をお願いします

- * 受付・回収期間: 10/1~10/30
- * 回収対象: 古着・靴・かばん

・成人服と子ども服の分別、段ボールでの提供にご協力いただけると幸いです。
・いただいた品物の返品はできかねますのであらかじめご了承ください。

【お問い合わせ】〒583-0841 羽曳野市駒ヶ谷 105-1 ふたかみ福祉会〔後援会事務局〕

TEL (072) 959-3221 FAX (072) 957-2215

受付時間: 月~金 9時~17時 お電話いただければ回収に伺います。

cafeハピバール

10月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 10日(土)、17日(土)

★Instagram★
[cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)



【お問い合わせ先】072-958-3232

■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

2026年8月

- * 渡辺博子/谷佐代子/山本真子/田中美希/森和美 …… 5口
- * 加藤勝己/加藤紀子 …… 3口
- * 中谷千代子/村上彩子/タング佳子/原田文夫/原田悦子/田中恭子/西川光子
越野玲子/高木昌美/松田実 …… 1口

■アルミ缶回収(8月分) …… 770 kg

ありがとうございます

◆2026年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費: 1口2,000円 団体会費: 1口10,000円】 郵便振替口座: 00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしています。

きょうされんアドバンス研修 障害者福祉の歩みとこれからの実践

きょうされんで実施されているアドバンス研修として、福井県にある障害者施設「ハスの実の家」の60年にわたる歴史と取り組みを学びました。

障害のある人が地域で自分らしく暮らすために、どのような壁にぶつかり、それをどう乗り越えてきたのか、現場の思いと工夫を改めて知ることができました。

「行き場のない子どもたち」のために、重い障害のある子どもたちは学校に通う機会すら与えられておらず、「どんなに重い障害があっても、あたりまえに生きられる街をつくりたい」という思いから個人の家庭からスタートされているということでした。

■公的な支援がない中での

手探りの活動

当初は国からの十分な支援がなく、建物も狭く、運営はとても厳しい状況で、地域の人々の寄付や協力を得ながら、働く場や暮らす場を少しずつ広げていかれたそうです。

「ハスの実の家の実践と歴史から」

■施設から

「街の中の暮らし」へ

大きな建物の中に大勢で暮らすだけでは、一人ひとりの思いに寄り添いきれない課題が見えたことで、「美味しいパン屋さん」や「小さなグループホーム」を街の中に作り、地域の人々と日常的に触れ合える環境（あたりまえの暮らし）へシフトされています。

「ハスの実の家」が大切にされていることとして、①「働くこと」と「表現すること」で生きがいをつくる。②一人ひとりの「最期まで自分らしく」を支える（高齢化への対応）③「ないものは自分たちで作る」街づくり・仲間づくり・以上の3点を挙げられていました。

障害のある人たちを大切にしたいという想いで仕事をしていますが、講義の中で話されていたのが、「人手不足と働く環境の課題」に直面している、ということでした。

福祉の現場ではスタッフの不足が続いており、支援の手が足

りなくなるリスクがあります。物価の高騰や社会情勢の影響での資材の値上がりにより、施設で作る商品のコストが上がり、利用者に負担する給料（工賃）に影響が出るなどの厳しい現状があります。また、国の制度変更により、現場の負担が増えたり、一人ひとりに合わせた柔軟な支援がしにくくなったりする懸念が示されていることについても、今後より良い支援をしていくにあたって大きな課題であると話されていました。

今回講義の中で、どんなに障害が重くても、年をとっても、「本人がどうしたいか」を一番に考え、周囲がサポートや工夫を続けることの大切さを学びました。また、施設の中に閉じこもるのではなく、街に出て地域の人々と顔の見える関係をつくること、障害のある人たちの尊厳を守り、豊かな暮らしを支える基盤として、地域社会とのつながりが重要であると感じました。（伊藤）

生活保護基準引き下げと

「最低基準の生活を守る権利」

8月18日に、きょうされん、居住支援事業所代表者の集いがあり、学習会と意見交換会をおこないました。

学習会では「いのちのとりで裁判全国アクション」事務局の田川英信氏をお招きし、「生活保護について」をご講義いただきました。特に、これまで生活保護基準引き下げの撤回を求めて裁判で争ってきた経過を中心に、詳しくお話しいただきました。

2025年6月の最高裁判決では原告側が勝訴したもの、「国が原告に謝罪していない」「追加支給の対象者であることを知らない人が多い」など、課題は山積みです。現在、生活苦を理由とした生活保護利用者の自殺が増加している現状があります。一人ひとりの権利として「最低基準の生活」を守り抜くために、今後も継続して生活保護基準について訴えていく重要性を再確認しました。

●人手不足と対応

「くらし」を支援する事業所にとって、長年続く「人手不足」は極めて深刻な課題です。国はグループホーム職員の条件を厳しくしよ

ハピバール

「ボーナスの取り組み」

まずは班ごとに、「どこへ行きたい?」「何をしたい?」と、みんなでわくわくしながら話し合い、それぞれの班で行き先や過ごし方を決め、日程を分けてお出かけしました。

にゃんザイル班は、ショッピングモールへ。フードコートでは、それぞれが好きなものを選んでランチタイム。食後はお買い物組とカラオケ組に分かれ、思い思いの時間を楽しみました。

はびきの園
ボーナス取り組み

夏季ボーナスの取り組みで道の駅ふたかみパーク当麻のレストランに昼食を食べに行きました。カレーやとんかつ、唐揚げなどの豊富なメニューの中からほとんどのなかまが天ぷらうどんを選びました。お出汁のきいたうどんと海老、さつま芋、ナスなど6種類の天ぷらが山盛りでした。

お店に入って天ぷらうどんが出てくるまでの間、厨房をじーっとみつめるなかま、見たことないような笑顔で待っているなかまの姿を見て「このレストランにして良かったな!」「次は何の麺にしようかな?」となかまが私をワクワクさせてくれました。（本間）



コネクト班のなかまは
麺類が大好きなんです



パファイぽっぽ班もショッピングモールへ!フードコート組とサイゼリヤ組に分かれてランチ。食事を味わった後は、お買い物やカラオケへ出かけました。

ゆずオレオ班は、あずさ珈琲でゆったりとランチを楽しんだ後、みんなでカラオケへ。普段は恥ずかしがり屋の仲間が、なんとマイクを離さないほど熱唱!仲間の意外な一面を発見できました。

班ごとに楽しい時間を過ごし、大満足!これからも仕事に励みながら、次の楽しい取り組みにつなげていきましょう!

(向山)